

経済指標ウォッチャー

10月米国CPI 8カ月ぶりに前年同月比8.0%を下回る

CPIを受けて12月FOMCでは0.5%利上げとの見方が大勢を占める

消費者物価指数（CPI）とは？

CPIとは消費者が実際に購入する段階の、輸送・食品・医療などの消費財やサービスの価格（物価）の変動を表す指数。CPIの項目、構成比、算出方法には国ごとに違いがある。米国では労働省が毎月中旬ごろに公表する。物価変動の基調をみるために価格変動の大きい項目を除いたコアCPIが重視されることが多い。米国ではCPIからエネルギーと食品を除いて、コアCPIが算出される。（参考：日本ではCPIから食品を除いてコアCPIが算出される）

CPIは前年同月比7.7%上昇

10日に米労働省が発表した10月のCPIは前年同月比+7.7%と9月の同+8.2%から低下し、市場予想の同+7.9%をも下回り、2022年2月以来8カ月ぶりに同+8.0%を下回りました。足元の物価動向を反映する傾向があると言われる前月比も+0.4%と市場予想の同+0.6%を下回りました。変動の大きいエネルギーと食品を除いたコアCPIも前年同月比+6.3%と9月の同+6.6%から低下し、市場予想の同+6.5%も下回りました(図表1)。

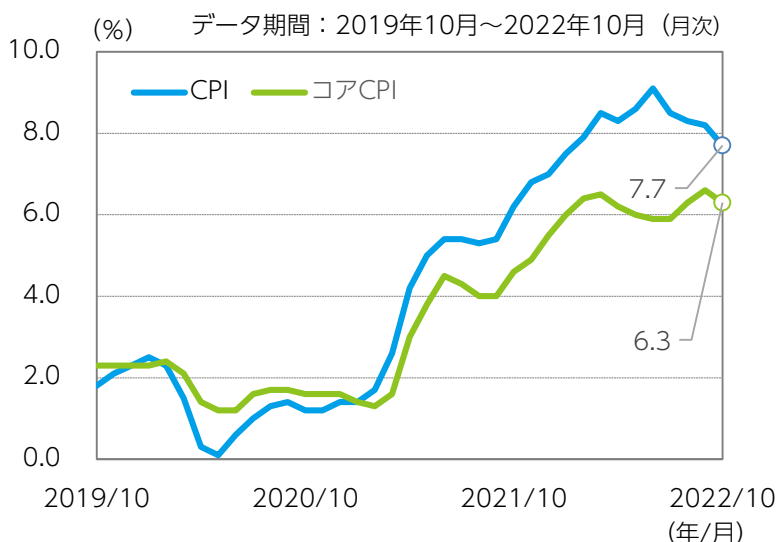
住宅購入を見送った人々の賃貸住宅への需要増にともなう住居費は前月比+0.8%と引き続き上昇基調にあるものの、衣料品(同-0.7%)やインフレ率上昇要因の一つであった中古車価格(同-2.4%)などが低下したことにより、CPIは市場予想を下回ったとみられます。

次回FOMCでは0.5%利上げとの見方が強まる

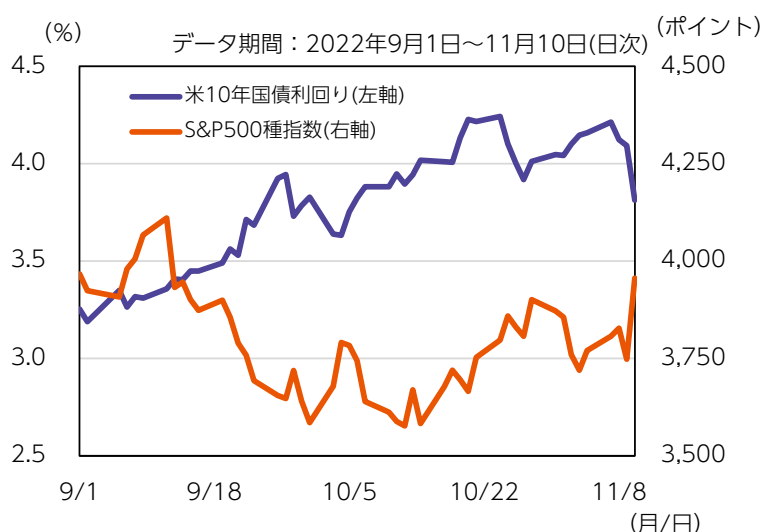
1～2日に開催されたFOMC(米連邦公開市場委員会)後の記者会見で、パウエルFRB(米連邦準備制度理事会)が利上げ幅の縮小に言及したものの、4日に発表された雇用統計が、雇用環境の底堅さを示す結果であったことから、FRBによる大幅利上げ懸念は払しょくされていませんでした。しかし、CPIが市場予想を下回ったことから、利上げ幅縮小期待が大きく高まり、米10年国債利回りは大幅に低下(価格は上昇)し、株価も大きく上昇しました(図表2)。

今回の結果を受けて、12月13～14日に開催されるFOMCで0.5%利上げとの見方が大勢を占めています。さらにCPI発表前にあった2023年中に政策金利が5.0%を超えるとの見方もほとんどなくなりました。インフレは今後落ち着くとの見方が強まっています。

図表1：米国のCPIとコアCPIの推移



図表2：米国の株価と長期金利の推移



出所) 図表1、図表2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>